



平成28年度発掘調査  
埋文

# さかど年報



五反田遺跡7区全景写真

坂戸市教育委員会

## 序 平成28年度坂戸市発掘調査概況

坂戸市は埼玉県のほぼ中央に位置し、市域の大部分を比較的平坦な台地(坂戸台地・毛呂台地)が占めます。また、市の北側と東側、中央部には広大な沖積地が広がっており、越辺川、高麗川をはじめとした多くの中小河川が流れています。安定した台地と、豊かな水源に恵まれたこの肥沃な土地で、人々は生活を営んできました。そのため市内では旧石器時代から中近世に至るまで多くの遺跡が確認されています。

平成28年度、坂戸市教育委員会では本発掘調査22件(平成27年度からの継続事業を含む。)を実施しました。調査理由の大半は個人住宅の建設に伴う調査で、そのほかのものとしては、新設道路や、老人ホームの建設などに伴って調査が行われました。

調査件数を地域別で見ると入西地区が最も多く、16件の調査を実施しています。特に北峰古墳群のある西浦遺跡では11地点で調査が実施され、数多くの古墳が発見されました。

市の東部では小沼地区の五反田遺跡や中小坂地区の上谷遺跡などで調査が行われ、方形周溝墓や、集落跡などといった、古代の生活の痕跡が見つかっています。



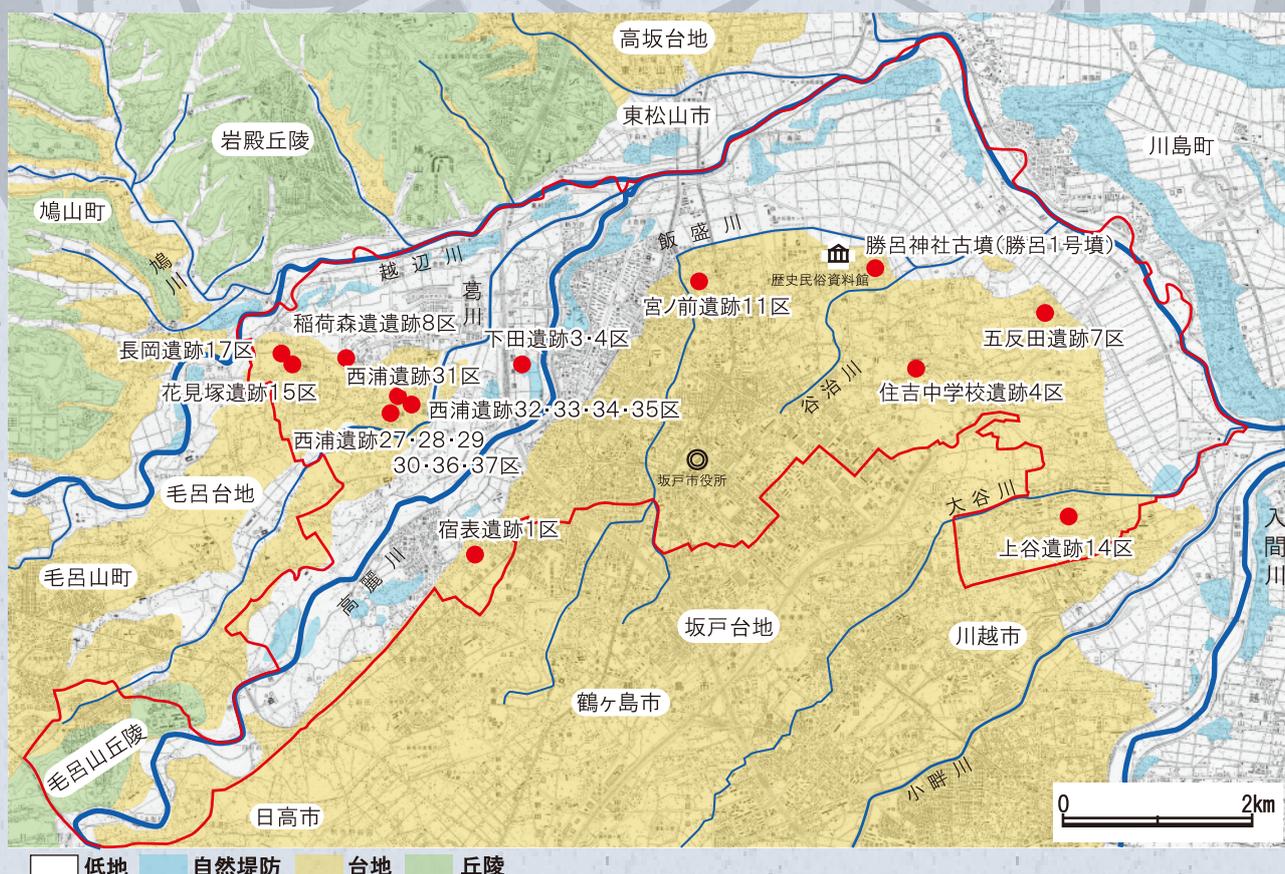
作業風景(西浦遺跡27区)



作業風景(宮ノ前遺跡11区)



作業風景(西浦遺跡36区)



はなみづか  
1 花見塚遺跡15区 (坂戸市大字小山字月木)

調査期間 平成28年4月8日から  
平成28年5月13日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡4軒  
(古墳時代後期、奈良・平安時代)
- ・溝跡4条
- ・土坑2基



花見塚遺跡は坂戸市の西部、小山地区に広がる遺跡で、越辺川の沖積地を臨む台地の縁辺部に立地しています。これまでの調査で、古墳時代、奈良・平安時代の集落跡が発見されています。

花見塚遺跡15区では、古墳時代後期と奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒などが発見されました。このうち調査区西側で見つかった3号住居跡では多くの炭化した木材や熱を受けて変色した床面などが確認されています。このことから、何らかの理由(放火や失火)で焼失した住居跡であると考えられます。この住居跡内からは甕かめや甑こしきなど多くの土師器はじきが出土しました。

甑・・・蒸し器として使用された土器。カマドに甕とセットで仕掛けて米などを蒸した。



調査区全景 (西から撮影)

白線で囲まれた部分が竪穴住居跡。



1号住居跡全景 (南から撮影)

竪穴住居の屋根を支える柱の穴が4つ確認できる。



3号住居跡全景 (南から撮影)

北側にカマドがあり床面には土器が散乱している。



3号住居跡貯蔵穴 (南から撮影)

貯蔵穴の中から甕や甑が良好な状態で出土した。

## 2 ごたんだ 五反田遺跡7区 (坂戸市大字小沼字新井)

調査期間 平成28年6月6日から  
平成28年7月13日まで

調査原因 特別養護老人ホーム建設

調査した遺構と年代

- ・方形周溝墓3基(古墳時代前期)
- ・古墳1基(古墳時代)
- ・溝跡1条
- ・土坑3基



五反田遺跡は坂戸市の東部、越辺川の沖積地を東側に臨む台地の縁辺部に立地しています。

五反田遺跡7区では、古墳時代前期の方形周溝墓が3基連なったような状態で発見されました。

1号方形周溝墓は1辺が約15m、2号方形周溝墓は1辺が約7mありました(3号方形周溝墓については正確な規模は不明)。それぞれの周溝のコーナー付近からは、古墳時代前期の土師器壺が出土しており、葬送儀礼などで使用されたものが、周溝内に落下したものと考えられます。

方形周溝墓・・・弥生時代から古墳時代前期にかけて造られた墓の一形式。墓の周囲に方形の溝がめぐる。



調査区全景 (空中写真撮影)

左から牛塚山12号墳、2・1・3号方形周溝墓。



1号方形周溝墓 (北から撮影)

人と比べると、周溝墓の大きさがよくわかる。



1号方形周溝墓遺物出土状況  
赤彩と装飾が施された壺。



2号方形周溝墓遺物出土状況  
方台部から周溝の中に落下したと思われる。

3 とうかもり 稲荷森遺跡 8 区 (坂戸市大字小山字熊野)

調査期間 平成28年7月25日から  
平成28年8月9日まで

調査原因 個人住宅建設

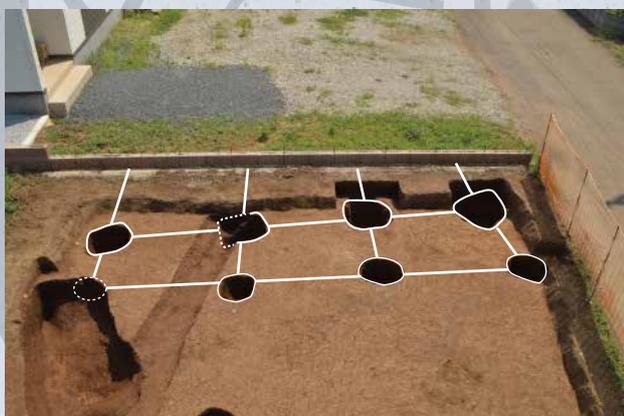
調査した遺構と年代

- ・掘立柱建物跡2棟(平安時代)
- ・溝跡1条
- ・土坑1基
- ・柱穴11基



稲荷森遺跡は坂戸市の西部、毛呂台地上に立地しています。隣接している稲荷森遺跡5～7区では、平安時代の住居跡が多数発見されています。

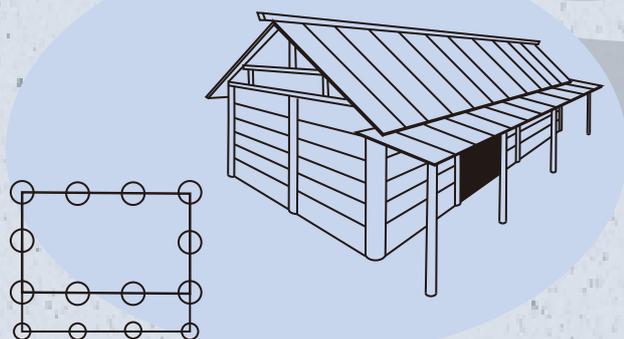
稲荷森遺跡8区では、平安時代のものと思われる掘立柱建物跡2棟などが発見されました。今回の調査で発見された建物跡2棟は、大部分が調査区外のため、全体像を明らかにすることはできませんでした。しかし、柱の形状や並び方から想定すると、いずれも総柱建物もしくは廂付建物であったと想定されます。



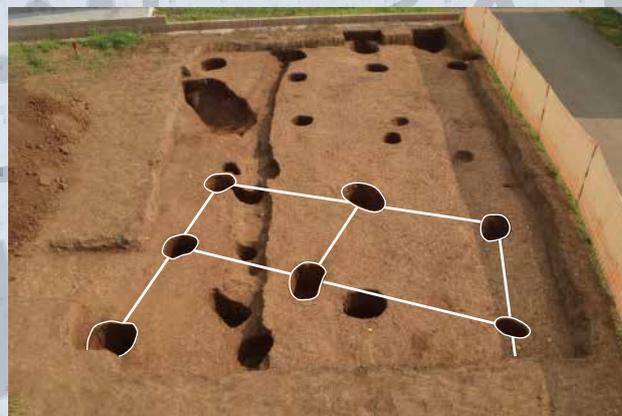
1号掘立柱建物跡 (北から撮影)

東西3間×南北1間確認された。廂付建物跡か。

廂付建物(イメージ)



廂付建物…母屋の外側に廂がついた建物。廂部分の柱穴が母屋に比べて小さい場合がある。



2号掘立柱建物跡 (北から撮影)

東西2間×南北2間確認された。総柱建物か。

総柱建物(イメージ)



総柱建物…柱間すべてにくまなく柱が配置された建物。高床で倉庫などに用いられる。

調査期間 平成28年6月6日から  
平成28年7月13日まで

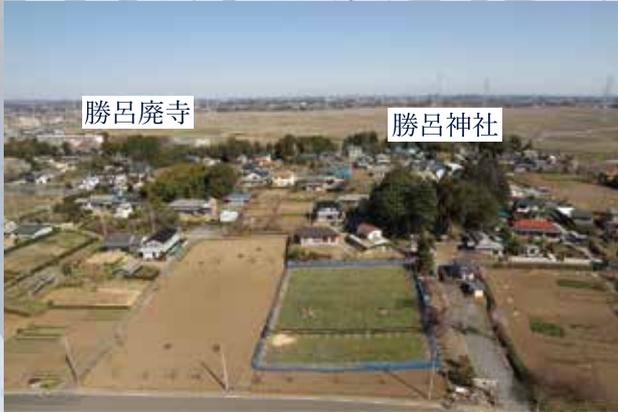
調査原因 保存目的の範囲内容確認調査

調査した遺構と年代  
墳丘直径約40mの円墳  
（古墳時代終末期）



勝呂1号墳（勝呂神社古墳）は、墳丘の直径が約40mの円墳で、この地域の有力者の墓とされています。周辺をみると、<sup>どうやま</sup>洞山古墳などの大型古墳や、埼玉県内で最大規模の古代寺院勝呂廃寺、<sup>どうさんどうむさしみち</sup>古代官道東山道武蔵路など、古墳時代から奈良時代にかけての重要な遺跡が立地しています。

平成26・27年度に駒澤大学が測量調査を実施しており、今回も引き続き駒澤大学と合同で調査を実施しました。3か所にトレンチ（調査用の溝）を設定し、掘削をした結果、一部で周溝の落ち込みと思われる個所を検出しましたが、規模や範囲についてはいまだに不明確な部分があります。



勝呂神社とその周辺（空中写真撮影）  
奥に勝呂廃寺、手前に勝呂神社がある。



勝呂神社古墳（南から撮影）



作業風景

トレンチ内の調査風景。



現地説明会の様子

調査期間 平成28年10月3日から  
平成28年10月13日まで

調査原因 グラウンド改修工事

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡1軒(平安時代)
- ・土坑4基
- ・柱穴1基



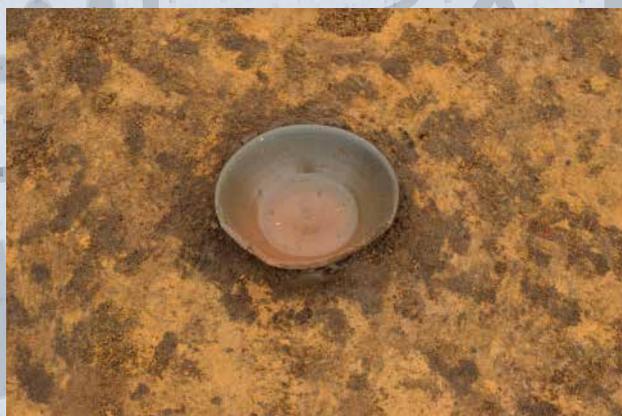
住吉中学校遺跡は坂戸市の東部、塚越地区にあり、中学校校舎建設の際に奈良・平安時代の大規模な集落跡が発見されています。遺跡の西側約300mの地点に古代官道である東山道武蔵道が通っていることから、古代の坂戸を考えるうえで重要な遺跡の一つと言えます。

今回の調査では、平安時代の住居跡1軒が発見されました。住居跡の規模は約3m×3mのほぼ正方形で、床面付近からはほぼ完形の須恵器の坏と刀子が出土しました。

刀子…ものを切る、削るなど加工に用いられた工具の一種。加工用の工具としてだけではなく、木簡もっかんの表面を削る書刀としても用いられた。



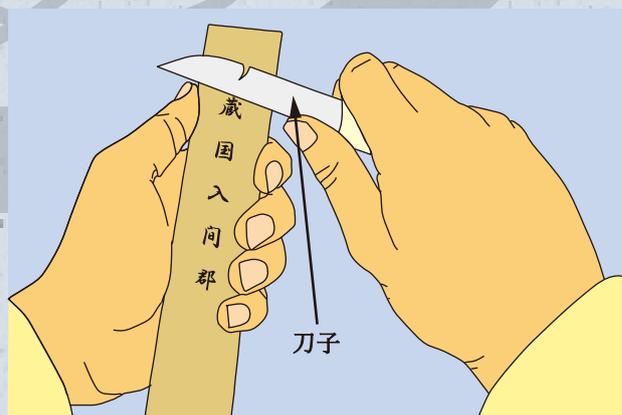
1号住居跡全景 (西から撮影)  
東側にカマドがある。



1号住居跡出土遺物  
須恵器の坏。



1号住居跡出土遺物  
刀子、鉄の部分のみ残っている。



刀子 (イメージ)

6 みやのまえ 宮ノ前遺跡11区 (坂戸市大字片柳字中村)

調査期間 平成28年8月17日から  
平成28年10月13日まで

調査原因 土地区画整理

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡2軒(平安時代)
- ・掘立柱建物跡1棟(中近世)
- ・溝跡5条                    ・土坑37基
- ・井戸3基                    ・柱穴65基



宮ノ前遺跡は坂戸市の中央部、台地上に展開している遺跡で、弥生時代から中近世に至るまでの遺構が濃密に分布しています。

宮ノ前遺跡11区では、道路の敷設に伴う発掘調査で、多数の遺構が検出されました。このうち3基の井戸については、出土遺物などから1号井戸が奈良・平安時代、2・3号井戸が中世のものと考えられ、古代の土師器・須恵器や布目瓦、中世の陶磁器類や板碑、石臼などの石製品といった多数の遺物が出土しました。

板碑いたいしとうば・・・板石塔婆。石で作られた板状の石碑。供養や追善のために作られる。



調査区全景 (西から撮影)

溝や土坑、柱穴群など多数の遺構が確認された。



1号井戸全景 (西から撮影)

ほとんどの遺物が井戸の底付近で出土した。



3号井戸全景 (南から撮影)

井戸の底からは水が滾々と湧いている。



3号井戸出土遺物 (右)  
上段：石臼 下段：板碑



1号井戸出土遺物 (左)  
古代の布目瓦

井戸出土遺物

井戸の中からは様々な遺物が出土した。

## 7 <sup>かみや</sup>上谷遺跡14区 (坂戸市大字中小坂字西谷ツ)

調査期間 平成28年11月25日から  
平成29年1月13日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡6軒(古墳時代中期～後期)
- ・土坑1基(古墳時代後期)
- ・柱穴1基



上谷遺跡は坂戸市の東部、中小坂地区に位置し、大谷川を臨む台地上に立地しています。今回の調査では古墳時代の遺構が数多く発見されました。特に調査区南西隅の2号住居跡ではカマド、貯蔵穴の周辺から大量の土師器が出土しました。また、調査区中央部では、古墳時代に粘土を採掘した跡(粘土採掘坑)と考えられる大型の土坑が発見されました。土層の観察から、掘ったり埋めたりを何度も繰り返していることが明らかとなっており、この地域に眠る良質な粘土を、集中して採掘していたことが想定されます。この粘土を用いて土器作りを行っていたのかもしれませんが。



調査区全景 (西から撮影)

住居跡6軒と粘土採掘坑を確認した。



2号住居跡全景 (南から撮影)

住居の北側にカマド、北東隅に貯蔵穴がある。



2号住居跡遺物出土状況 (東から撮影)

貯蔵穴からは大量の土師器が出土した。



粘土採掘坑 (北から撮影)

土坑の底面に見える黄白色の土が粘土。

調査期間 平成29年1月6日から  
平成29年1月24日まで

調査原因 特別養護老人ホーム建設

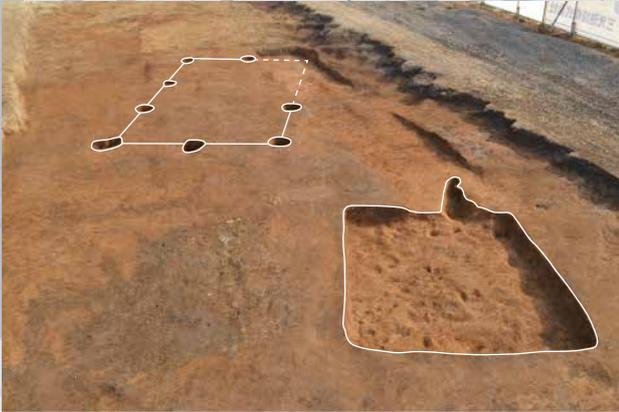
調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡1軒(平安時代)
- ・掘立柱建物跡1棟(平安時代)
- ・土坑8基
- ・柱穴1基



宿表遺跡は今回の地点が初めての発掘調査となりました。調査の結果、平安時代の住居跡と掘立柱建物跡などが発見されました。

1号住居跡は東側にカマドを設け、平面形は長方形をしています。住居跡内から出土した遺物は須恵器の坏や土師器の甕などで、形態の特徴などから平安時代のものであることが明らかとなりました。1号掘立柱建物跡は3間×2間で住居跡と主軸の方向が類似しています。このことから、掘立柱建物跡は住居跡と同時期に存在した可能性が考えられます。



調査区全景 (西から撮影)

白線で囲まれた部分が住居跡。



1号住居跡全景 (南から撮影)

竪穴住居の屋根を支える柱の穴が4つ確認できる。



3号住居跡全景 (南から撮影)

北側にカマドがあり床面には土器が散乱している。



3号住居跡貯蔵穴 (南から撮影)

貯蔵穴の中から甕や鉢が良好な状態で出土した。

調査期間 平成29年3月1日から  
平成29年3月30日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡4軒(縄文時代・古墳時代)
- ・方形周溝墓1基(古墳時代前期)
- ・土坑5基
- ・柱穴1基



長岡遺跡は坂戸市の西部、毛呂台地上に立地した遺跡で、縄文から古代まで数多くの遺構が密集している地域です。今回の調査でも、数多くの遺構が重なり合って発見されました。

1号住居跡は、調査区中央で発見され、1辺が約6mの正方形で、カマドは東側に設置されています。特徴として、カマドの構築材に凝灰岩質砂岩ぎょうかいがんしつさがんを加工した石材が使用されていることが挙げられます。この住居跡は、出土遺物から古墳時代後期のものと思われます。

1号住居跡に壊されるような形で発見された1号方形周溝墓では、小型丸底壺などが出土しました。これらの遺物から、方形周溝墓の築造は古墳時代前期であると考えられます。



調査区全景 (東から撮影)  
中央に1号住居跡がみえる。



1号住居跡カマド (西から撮影)  
カマドの構築材に凝灰岩質砂岩が使用されている。



カマド遺物出土状況 (西から撮影)  
カマドの付近からは須恵器の坏身が出土した。



方形周溝墓全景 (南から撮影)  
住居跡に破壊されており、残存状況は不良だった。

しもだ  
10 下田遺跡3区 (坂戸市入西東部土地区画整理事業地内)

調査期間 平成28年12月15日から  
平成29年8月10日まで

調査原因 流通加工施設建設

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡10軒(弥生～古墳時代)
- ・掘立柱建物跡28棟(古墳時代・中世)
- ・溝59条 井戸14基 ・土坑73基
- ・水田面(奈良・平安時代)



下田遺跡は坂戸市の西部にある、入西東部土地区画整理事業地内にある遺跡で、高麗川左岸の沖積地に立地しています。

今回の調査では約8,000㎡にも及ぶ広大な調査区から弥生時代後半から古墳時代前期にかけての集落跡、古墳時代後期の集落跡、奈良・平安時代の水田面など多岐にわたる時代の様々な遺構が多数発見されました。なかでも、弥生時代後半から古墳時代前期にかけての集落跡の調査では「吉ヶ谷式土器」と呼ばれる埼玉県に多く分布する土器が主体的に出土しました。さらに住居の柱穴からは柱材が出土しており、分析によって樹種や年代などが明らかになることが期待されます。



調査区全景 (空中写真撮影)

竪穴住居跡と掘立柱建物跡が確認できる。



1号住居跡出土遺物

1号住居跡では吉ヶ谷式土器が出土した。



9号住居跡全景 (南から撮影)

長方形の竪穴住居跡 (古墳時代前期)。



6号住居跡出土柱材

柱穴の中には木材が残っているものがあった。

## 11 しもだ 下田遺跡4区 (坂戸市入西東部地区区画整理事業)

調査期間 平成29年1月10日から  
平成29年1月31日まで

調査原因 区画道路新設

調査した遺構と年代

- ・溝7条(古代・中世)
- ・土坑2基
- ・柱穴50基
- ・畝跡



調査区全景



下田遺跡は高麗川右岸の沖積地に広がる遺跡です。今回の調査では古代・中世の溝跡や近世の頃のものと思われる柱穴群が発見されました。柱穴群は掘立柱建物跡になるものがあつた可能性もありますが、5mの道路幅で実施した調査のため、全体像の把握ができませんでした。

## 12 にしうら 西浦遺跡31区 (坂戸市大字新堀字橋場)

調査期間 平成28年8月9日から  
平成28年9月6日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代

- ・溝2条(近世以降)
- 土坑1基(中世)
- ・柱穴1基



1号土坑出土銭貨

開元通宝の「開」と「通」の文字がみえる。



西浦遺跡は毛呂台地上に位置し、各時代の遺構が密集している遺跡です。

今回の調査では近世以降まで排水溝として機能していたと思われる溝2条のほか土坑1基などが発見されました。

1号土坑は開元通宝などの銭貨が4枚出土したことから、中世の墓坑であったと思われます。

13 にしうら 西浦遺跡27・28・29・30・36・37区 (坂戸市大字北峰字西浦)

調査期間

27・28区 平成28年5月25日から平成28年6月23日まで  
29区 平成28年6月26日から平成28年8月26日まで  
30区 平成28年7月8日から平成28年8月26日まで  
36区 平成29年1月10日から平成29年2月2日まで  
37区 平成29年2月3日から平成29年3月3日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代 竪穴住居跡1軒(縄文時代) 古墳7基(古墳時代後期)  
溝13条 土坑・ピット多数



毛呂台地上に位置している西浦遺跡の範囲内には北峰古墳群が展開しており、現在までに40基以上の古墳が存在していたことが確認されています。西浦27・28・29・30・36・37区はそれぞれ隣接しており、古墳群の様子を広範囲で明らかにすることができました。調査対象となった古墳は7基で、平成27年度に調査を実施した26区分も含めると8基の古墳が密集した状態で発見されました。大半は円墳ですが、北峰31号墳は北峰古墳群中では初となる前方部をもつ「帆立貝式古墳」であることが明らかとなりました。また、北峰36号墳からは複数の人物埴輪が出土しており、古墳群の様相を考える上ではとても重要な調査成果と得ることができました。



北峰36号墳人物埴輪出土状況

人物埴輪は周溝内からバラバラの状態出土した。



接合が完了した人物埴輪

こうがいぼう ふりわけがみ

左から頭上で壺を持つ女子、笄帽の男子、振分髪の男子。



全景 (空中写真撮影を合成)



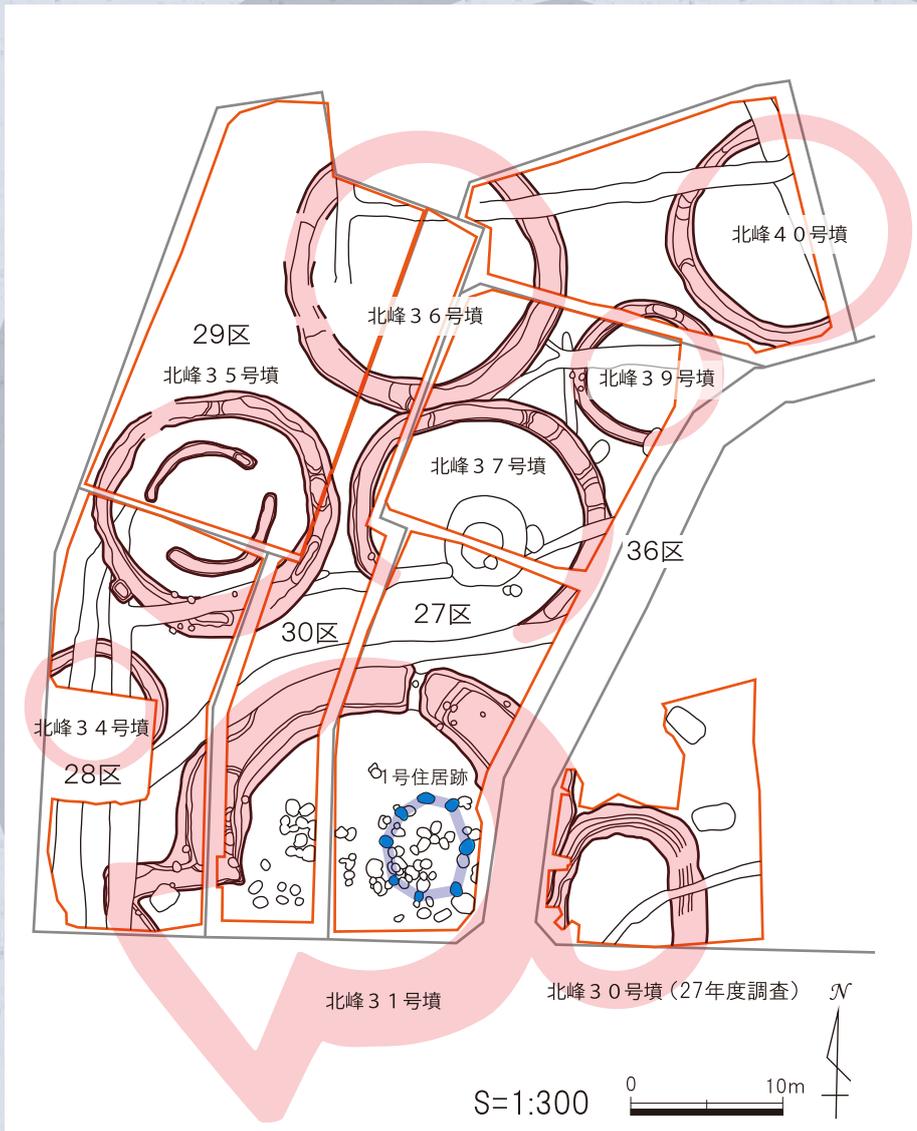
【37区】調査区全景(西から撮影)  
36号墳と37号墳がみえる。



【28区】北峰34号墳(東から撮影)  
直径約8mの円墳



【28区】北峰35号墳(南から撮影)  
一部を溝に壊された状態で発見された。



【30区】北峰35号墳(北から撮影)  
北半部。周溝が二重に廻っている



【36区】北峰36号墳埴輪出土状況  
円筒埴輪がまとまった状態で出土した。



【36区】北峰36・37号墳(西から撮影)  
2基の古墳の周溝が切りあっている。



【27区】1号住居跡(西から撮影)  
縄文時代の住居跡。柱穴が円形に並ぶ。



【36区】北峰31号墳埴輪出土状況  
31号墳では複数の円筒埴輪が出土した。



【36区】全景(北から撮影)  
36号・37号・39号墳の3基がみえる。

調査期間 平成28年10月21日から  
平成28年12月7日まで

調査原因 個人住宅建設

調査した遺構と年代

- ・古墳3基(古墳時代後期)
- ・溝跡1条
- ・土坑1基



32～35区の調査では古墳3基(北峰1・18・38号墳)が調査の対象となりました。1号墳は今もなお墳丘が現存している古墳で、通称「松の木古墳」と呼ばれています。南側周溝が調査対象となり、周溝内からは形象埴輪片や平安時代の須恵器などが出土しました。

38号墳は、今回の調査で初めて発見された古墳で、直径約15mの円墳です。周溝に張り出し部を持っており、これは周辺の古墳の一部でも見られる特徴の一つでもあります。遺物は土師器の壺等がまとめて出土したほか、石製の勾玉が出土しました。埋葬施設については削平をうけていることから痕跡を明らかにすることはできませんでした。



調査区全景 (空中写真撮影)

古墳3基が密集して発見された。



北峰1号墳全景 (南東から撮影)

奥に見える盛土部分が、現存する1号墳の墳丘。



38号墳全景 (南から撮影)

墳丘は現存しておらず、周溝のみが発見された。



38号墳出土勾玉

周溝内から出土した。